

会 議 録

I. 附属機関等の会議の名称

令和5年度 第2回 松川町地域公共交通対策協議会

II. 開催日時

令和6年1月18日（木） 午前9時30分～11時00分

III. 開催場所

松川町役場 大会議室

IV. 出席者氏名

《委員》

北沢秀公会長 水野一昭副会長 藤澤洋二委員(代理/堀内郁勇) 片桐実委員(代理/片桐博)
松下重幸委員 大澤勲委員 下澤義彦委員 小澤文人委員 松下文子委員 原節子委員
丹羽克寿委員(代理/清水斉) 唐澤則夫委員(代理/清水範浩)
笠原敏克委員(代理/名取賢一) 鈴木正満委員 原高広委員 塩倉智文委員
[欠席：山岸康範委員 小平順一委員]

《事務局》

黒澤哲郎幹事長 下井昭二事務局長 大橋良平事務局員 元木ともみ事務局員

V. 非公開の理由（会議を非公開とした場合）

—

VI. 傍聴人の数

7人

VII. 協議事項（公開）

- (1) 令和5年度地域公共交通確保維持改善事業の事業評価案について
- (2) 令和6年度に向けた運行改善の方向性について

VIII. その他

IX. 会議資料の名称

次第およびVIIに係る資料

X. 審議の概要

1. 開会（下井事務局長）
2. 会長挨拶（北沢会長）

<事務局より説明>

協議会規約第7条により会長が議長となる。

委員 18 名中 16 名の出席、代理出席による委任状 5 名提出、欠席 2 名により本会議は成立する。

3. 協議事項

(1) 令和 5 年度地域公共交通確保維持改善事業の事業評価案について

- ・地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（生活確保維持改善計画に基づく事業）
- ・地域公共交通確保維持改善事業（新モビリティサービス推進事業）・事業評価

(2) 令和 6 年度に向けた運行改善の方向性について

- ・車両見直し
- ・運賃見直し
- ・免許返納対策への踏み込み
- ・令和 6 年度路線休止（大島循環、上片桐循環、生田循環（峠部奈、中山柄山））

< (1) (2) 続けて事務局より説明 >

委員：乗客から『こっちへ行け』『運賃は最後じゃないと支払わない』など、無茶な要求をされる時がある。ドライバーもなるべくお客様にクレームをもらわないよう、情報共有しながらお客様に寄り添った対応を心がけているが、限界がある。チョイソコに乗車いただくのが難しいお客様には福祉車両へ乗っていただくなどを検討願いたい。

事務局：高齢であったり福祉が必要な方であったり、無茶な要求をする乗客がいるのは事務局も把握している。どうしてもタクシー感覚で乗車される乗客がいる。ドライバーの方にも、『こういう理由だからこのルートで行くのは難しい』と丁寧な対応をお願いしたい。こういった意見は事務局にも寄せられることが多い。その場合は 1 件 1 件丁寧な対応を心がけており、これからも丁寧に説明していく。ドライバーに負担をかけてしまうのは重々承知だが、現場の方にも丁寧な対応に協力願いたい。また、町には公共交通のほかにも、福祉の関係ではひまわり乗車券の制度もある。こちらとも連携を図りながらバランスを保ってまいりたい。

委員：小中高校生料金の関係はとても良い。

夏に高校生がアルバイトでチョイソコを利用していたのが何件かあった。夏休みなどに高校生がアルバイトに出かけた場合、夕方や夜までなら親の送迎があるが、昼間に終わってしまうと足がない。そういったときにチョイソコの存在は大きいと思う。高校生など、若い人の利用があると地域活性化につながるのではないかと。

事務局：理解いただきありがたい。新たな需要という部分で、チョイソコの存在感を高めていきたいと考えている。現役世代は子どもの送迎のみならず、両親の送迎もある。この点が田舎暮らしの不利な部分であるように感じている。この町ではそういった部分を公共交通で補い、家族の負担を軽減したいという思いがある。これらをどう周知できるかがこれからの腕の見せ所だと考えているため、このようなご意見は大変ありがたい。

委員：高齢者の免許返納の関係は、もう少し宣伝が必要ではなかったか。組合回覧でまわってきたが、全戸配布で全戸に情報を発信すべきではないのか。

事務局：承知した。情報発信の仕方について検討しながら進めていく。

委員：AI システム上で出す乗り合いが少ないように思う。コールセンターのスタッフが電話を切った後に『乗り合いができる』ということが判明するケースも少なくない。予約画面上で4台が同時にどのように動くかが分かるようになると良い。今の状況だと乗り合いが少なく、500円で走るタクシーが乱発しているような状況になっている。だからこそさっき指摘があったように、介助が必要な方も乗ってしまうのでは。先ほどのドライバーの話は、利用者にもっとはっきり言って良いと思う。ルートが多少違って、料金500円は変わらない。事務局でも『タクシーとは違う』と案内をしてもらうようになっている。そのあたりは現場も改善できたらと思う。

システムの面で、ドライバーとコールセンターの連絡手段に無線のようなシステムを入れることはできないか。個人宅まで行かなければならないということで、実際に行ってみたら玄関が違うとかトラブルが散見される。そういった場合に対処できる無線アプリみたいなものがあれば良い。検討願いたい。

事務局：チョイソコの運行もしつつコールセンターの切り盛りもあり、大変なご苦労をかけていることは承知している。コールセンターとドライバーのやり取りについての具体的なことはまた事業者会で協議を進めていけたらと考えている。

お客様への接遇に関しては、高齢の方が多いのでどうしても説明が必要となる場面が多くなる。タクシーとは違うという部分はもちろん、お客様に理解していただくという面でお互い引き続き努力していけたらと思っている。ぜひともそういった面もサポート願いたい。

ひまわり乗車券などのタクシーサービスとの棲み分けも大事だと感じている。役場内でも連携していきたい。

委員：運行開始当時、正直なところあまり利用が伸びないと感じていた。しかし、健診会場でのPRなど、そういった利用促進策を打っていかないと会員や利用者も増えていかないということで、事務局側の努力が結果に表れて大変すばらしいことだと感じている。

日赤病院をはじめとした医療機関を利用される方が多くいる中で、家族が送迎に行かなくてもチョイソコがその役割を担うような、そういう慣習みたいなのを町民の皆さんに作っていただいて、利用してもらうことが大事だと思う。

運行事業者の方から具体的に困っていることなどを共有されている様子を見て、こちらが見ていてわからない部分はたくさんあり、改善点もあると感じた。チョイソコがより良くなるよう引き続きお願いしたい。

事務局：ご意見感謝申し上げます。送迎の話が出たが、これが浸透していくにはやはり住民への周知が重要。これを痛感した1年だった。

周知の面で、町も公式LINEをはじめた。チョイソコを町のLINEから簡単に予約できる仕様になったため、高齢者には厳しい部分もあるが、その家族が簡単に予約できるようになる。

これからも運行事業者と連携しながら課題解決をしていくとともに、利用促進については町で行われている講座等も活用しながら周知を続けてまいりたい。

委員：利用者を増やすことを目標としているのに車両はダウンサイジングするのか。その意味は。現行4人と6人だが、来年度からは3人と4人になる。ダウンサイジング

する意味を説明いただきたい。

事務局：来年度導入するシエンタは本来ドライバーを抜いて6人乗ることができる。しかし、買い物等をしたとすると荷物を置くスペースは確保したいところ。余裕を持たせての3人の設定である。この設定はシステム上すぐに変更可能であるため、実質6人乗ることができる。

定員を減らすという意味では、現在走っているハイエースについては昨年廃止したコミュニティバスで使っていた車両をそのまま使っている。ハイエースは大量輸送型であるため、多くの人を乗せるのに適している。しかし、デマンドは小回りが重視されるため、シエンタはその点ハイエースよりも優れている。

また、4台運行すると4+4+3+3で一度に14名乗車可能。現状どんなに乗車人数が多くても10人前後のため、この形で収まると考えている。当面は乗車定員を確保しつつ、小回りが利くという形でやっていきたい。

委員：承知した。

委員：補助金の話が出てきたが、町として費用はどうなっているのか。当然赤字経営ということになるが、その点どうしていくのか。今年の実績や予算の話を知りたい。

事務局：予算規模でいくと今年度はコミュニティバスとチョイソコを合わせて7,000万円を費用として計上している。その中で、3,000万円ほど国から特別交付税という形で支援があること、それに加えて本日案として示している評価案がそれにあたるが、国交省からのフィーダー系統補助金という形で支援がある。フィーダーについてはバスの赤字補填という意味合いがある。それが350万円ほどあり、あとは利用者から運賃という形でもらうため、差し引くと町からの持ち出しは実質3,400万円ほどとなる。今年度は導入の年であったため、ランニングコスト以外にも導入費用としてのイニシャルコストがかかっている。今後はコストについて若干下がることを想定しているが、燃料費や人件費が上がっている現状があることから、来年度の予算においても前年並みということになりそうである。

赤字についてだが、公共交通は黒字になる方が難しい。赤字が大前提である。この認識をご理解いただきたい。そのうえで、住民サービスという視点から、今後どう継続していくかが課題で、これだけ費用を費やしているところであるため、住民が利用しやすいものにして、住民の役に立つ努力をしていかなければならないという課題意識がある。これらをご理解いただきたい。

委員：承知した。

委員：保健福祉課ではひまわり乗車券制度というものがあり、障害者、介護認定者、高齢者にタクシーの補助を渡すという事業を進めている。これに関して来年度制度の見直しをかけている。具体的にはチョイソコまつかわを利用しにくい方にひまわりを利用していただくというイメージ。公共交通の利用が難しい皆さんに、介助ができるタクシーをご利用いただくという趣旨になっている。また、チョイソコは町内限定であるため、通院補助という形で町外の補助も考えている。チョイソコの制度にかけ合わせてひまわりの制度も構築されていくように考えているため、委員の方にも共有させていただく。

一点質問だが、以前家族の送迎の予約をしようとしたら希望の時間にできないことがあった。これは利用者が多い場合には希望の時間には予約が取れないということ

か。

事務局：夏に利用者数が50件近くなった時があった。この日は希望通りに予約が取れないということもあった可能性がある。

委員：松川町の場合は日赤の診療科にもよるが金曜日に予約が集中する。予約が集中すると乗務員の休憩が確保できない時もある。そういった環境である。利用が集中した日に、予約の差が5～10分程度しかなく、そこが乗り合いできるのではとシステム上動かす処理をしたが、エラーが起きてしまった。システム会社からはAIでできた予約を手動で動かすことは控えてくれと指導があった。こういったことはこの後の事業者会にて共有させていただく。コールセンターもこの町のことを知り尽くしている。人間が予約を取ったほうが良い時もある。結論、予約を断ったときは1時間を切って予約しようとした利用者以外はない。

委員：承知した。

【令和5年度地域公共交通確保維持改善事業の事業評価案について承認】

【令和6年度に向けた運行改善の方向性について承認】

4. その他

【松川町コミュニティバスのお盆期間中の運行について】

＜事務局より説明＞

＜質疑・応答なし＞

5. 閉会（下井事務局長）